



文責：矢田部 瑞穂

1学期の色は「充実の赤」

担任をしている時、帰りの会で一日を振り返りながら毎日連絡帳に心を色で表して日記を書く「カラー日記」を続けてきました。1学期を振り返って「カラー日記」を書いてみたくなりました。

令和2年度浅内小学校の1学期は「充実の赤」です。本当にあつという間の6か月でした。その間、いろいろなことがありましたが、一番の充実感は、初めましての子どもたちとたくさん話して、たくさん笑ったことです。感染症対策や熱中症対策等、学校に求められることは多く、まだまだ至らないところもたくさんありますが、68人の子どもたちが、全員元気に1学期最終日を迎えられたことこそ一番の充実です。2学期は、「実りの日々」を過ごせるよう、また、子どもたちにとって「わくわくにこにこどんどん」がたくさんの学校生活が送れるようにさらに工夫していきたいと思えます。1学期間のご支援ご協力に、心より感謝いたします。ありがとうございました。

9/24 所長訪問 (II期)



自分の考えを
発する
平川さん

9月24日(木)今年度2回目の北教育事務所山本出張所長訪問が行われました。2回目は、今年度秋田県に採用になった教員の授業を参観しました。本校の小松知優先生は、富山県での教員経験があるのですが、秋田県での採用一年目となりますので、1年生の国語の授業を見ていただきました。「くじらぐも」の授業です。8人全員が自分の考えを書いて、8人全員が発言しました。何回も何回も。これが小規模校のよさであり、小規模校で鍛えられる！と言われる所以です。

参観後の感想を少し紹介します。

- ①とても意欲があり発表内容も素晴らしい、1年生とは思えないくらい立派であった。
- ②先生と子どもの関係がとても良好で、信頼し合っていた。

※1年生も小松先生も、大変よく頑張りました。

9/25 ヨルダン応援隊!

9月27日の秋田魁新報にも掲載されましたが、来年開催予定の東京五輪・パラリンピックで能代市は、ヨルダンのホストタウンになっています。市でヨルダン選手への応援動画を作成しているのですが、その動画収録に浅内小学校が選ばれ、来年最高学年となる5年生が撮影に協力しました。約10秒間の動画なのですが、子どもたちはヨルダン国旗の前で、とてもすてきな笑顔で撮影できました。最初にメッセージを送ったのは保坂さん。年内に内閣官房東京五輪・パラリンピック推進本部の専用サイトで公開されるそうです。専用サイト <https://host-town.jp/> 楽しみにしてください。

世界へ発信! 5年生



全力が最高！マラソン大会&なべっこ会

秋晴れのもと、今年度もマラソン大会を開催できたことをとても嬉しく思います。また、2回目の「誰でも参観日」ということもあり、感染症対策に留意しつつも、62名ものご家族の皆様にお越しいただいたことを大変有り難く思います。

マラソン大会で応援しながら、昔のことを思い出しました。能代市陸上競技大会というものがあり、市内全ての小学生が集まり競い合いました。私は、800メートルの選手として学校代表で出場したのですが、後ろから2番目。とても辛い気持ちで走り続けたことを思い出しました。ただ、はっきりと順番が分かるこの競技は体力だけでなく、心の強さも鍛えられると私は思います。相田みつをさんの名言「柔道の基本は受身 受身とはころぶ練習

5・6年男子1000メートル



負ける練習 人の前で恥をさらず練習」。～人は、「失敗をすることそのもの」より、その失敗を誰かに見られることの方が辛く感じる。それも含めて「受身の練習」なのだろう。心のタフネスさは、近い将来確実に財産となる。負けることは悪いことではない。むしろ、大いに負ける練習を負けられる環境の内にするべきだ。～とても共感します。勝った人も、負けた人も、本当にみんな頑張りました。68人全員がゴールテープを切ることができたことが誇らしく思えます。今年も最高の経験ができました。

なべっこ会も、盛り上がりました。5年生が収穫したネギを使って、5、6年生が調理しました。ほとんどの班が、鍋が空っぽになりました。少し風が強い秋の一日、お腹も心も満タンになりました。

空っぽの鍋と一緒に！班長：保坂 (後ろ左から：三浦・田中・今野り・今野こ・木元)

瞳かがやく浅小っ子 コーナー

★マラソン大会各学年の金メダリスト★



平川

1年：平川
300M1分14秒



保坂

2年：武田
400M1分36秒



大塚

3年：保坂
500M2分06秒



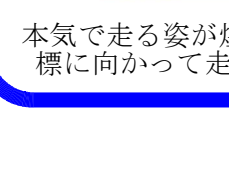
原田

3年：泉谷
500M2分02秒



高橋

4年：松山
600M2分27秒



高橋

4年：大塚
600M2分44秒

5年：原田
1000M3分49秒

5年：菊地
800M3分25秒

6年：保坂
1000M3分48秒

6年：高橋
800M3分24秒



武田



泉谷



松山



菊地



保坂

本気で走る姿が煌めいていました。さらに高い目標に向かって走り続けてほしいと思います。

9/24・25読書祭り！



上手な読み聞かせ！
右：木元（5年）
左：原田（4年）

9月24日25日、浅内小学校図書館が熱気に溢れていました。ちょっと覗いてみると、図書委員会による「読書祭り」が行われていたのです。はじめに、図書委員による紙芝居の読み聞かせ。その後、図書の貸出冊数をかけてのくじ引きが行われました。

図書支援員の斉云さんは今回の企画の立役者。「図書館に普段足を運ばない子どもたちにも、あまり読書が好きではない子どもたちにも、図書に親しみを持ってほしいという願いから企画してみました。普段は、2冊までしか借りられない本を10冊まで借りられるので、喜んでくれるといいのですが。」と語ってくれました。

上手な読み聞かせに聞き入る子どもたち、さらに、くじ引きに興奮する子どもたちの姿を見ながら、小学生は特に「きっかけづくり」がとても重要であることを感じました。

ますます魅力ある「浅内小学校」へ

同窓会総会で話題になりました「特認校制度」

9月11日に行われた同窓会総会において、今野清孝同窓会長がご挨拶の中で次の内容にふれてくださいました。「能代市の9月議会において、浅内小学校を通学区域に関係なく、市内のどこからでも就学を認める『特認校』にしてはどうかということが話題となっている。浅内小学校を『より魅力ある学校』にするために、地域をあげて盛り立てていきましょう。」と。そのお話を受け、同窓会総会参加の皆様方全員が「浅内小学校応援隊」として名乗りを上げてくださいました。

また、能代市教育委員会では、昨日の市議会の議決において、「今後も浅内小学校の魅力を広く発信していく」方向性を示してくださっています。同窓会の皆様や能代市教育委員会の皆様の有り難いお気持ちを重く受け止め、さらに気を引き締めて「魅力ある学校づくり」に努めたいと思いました。

本校は、2学期制のため、本日1学期の終業式を終えました。校長の話の中で、全校の子どもたちに次のことを話しました。①より魅力ある浅内小学校にするために②浅内地域の一員として、今年度のふるさと・キャリア教育テーマ「地域を創る」ということについて。「校長の宿題第2弾！」も持ち帰っておりますので、この秋休みに、もう一度「浅内」について、「浅内小学校」についてご家族で語り合う時間をもつていただければ幸いです。より魅力ある浅内小学校をめざして、これまで同様、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



一がっきがんばったこと
一年 平川

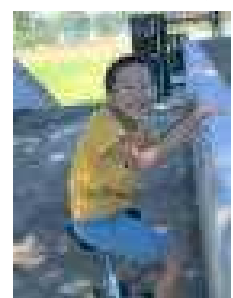
わたしが、一がっきがんばったことは、すいえいです。

まえは、はなをつままないともぐれませんでした。でも、はなからいきをだすようにしたら、もぐれるようになりまし。それに、からだのちからをぬいてうくこともできるようになりまし。いまは、あしをばたばたさせながらおよぐこともできます。

できるようになったことがたくさんあってうれしいです。

二がっきもできることをたくさんふやしたいです。

一がっきをふり返って
三年 保坂



ぼくが、一学きでがんばった事は、しゆくたいです。特にがんばったのは、国語と算数です。国語は、読んだり書いたりしながら登場人物の気持ちを考えました。算数では、三年生で初めて勉強したわり算をがんばりました。あまりのあるわり算もできるようになりました。たくさんど力して、いろいろなことができるようになりまし。二学きもがんばりたいです。

一学き中にできるようになった事は、一りん車です。三年生になって初めて一りん車にちゅうせんしました。さいしよは何回もころんできましたけれども、何回もやっていくにつれて、うまくなってきました。もう手をはなしてもできるようになりました。コツをつかむとうまくなれたので、とても楽しかったです。

一学きで楽しかったことは、うんどう会です。レクしゅもくのラケットリレーではバランスをとるのがむずかしかったです。全員リレーはさいごまであきらめずに走ることができたのでまん足です。

ぼくが二学きにがんばりたいことは、せいせきをもっと上げることです。たくさんばんきょうして、テストの点数を上げたいと思っています。とくに、ちよっと苦手な理科と社会をがんばりたいです。

一学期がんばったことと

二学期のめあて

五年 平川

ぼくが、一学期にがんばったことは三つあります。

一つ目は、勉強です。特に社会科の「水産業」の勉強を

がんばりました。ぼくは、魚が大好きなので特に興味をもってがんばりました。いろいろな漁業の種類や漁の方法、働く人々の努力や工夫などについて分かりました。年々とれる魚の量が減っているので、資源を守り、育てていくことが大切だと思っています。

二つ目は、あいさつです。近所の人や先生方、友達に自分から進んで明るく元気にあいさつをする事ができました。あいさつをしたあとは、とても気分がいいです。

三つ目は、野球の練習です。暑い日も夜おそくまで走りこみや素振りをはげまら、体をきたえました。

二学期、勉強では算数をがんばりたいです。一学期、計算ミスが多かったので、落ち着いて計算し、見直しもしっかりしたいと思います。

生活面では、高学年としてお手本になることができるように、一学期以上に、あいさつやそうじ、委員会活動などをがんばりたいです。

運動面では、野球の練習をがんばりたいです。特に、不得意な守備の練習に力を入れてレベルアップしていきたいです。充実した二学期になるように、一生けん命がんばります。



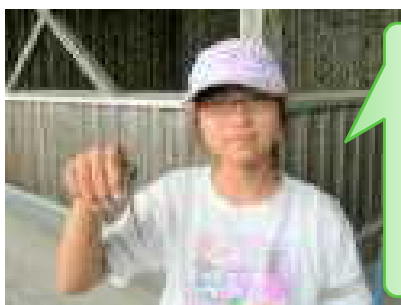
瞳かがやく浅小っ子コーナー

3人もトンボを持っているのが分かるでしょうか。唐津先生がちょっと前に「浅内小学校と言えば、虫！すごく豊かです。」と話していたのを思い出した。他にもたくさん虫が好きな子どもはいるのだが、ちょっと「この3人とトンボと私と」のエピソードを紹介したい。

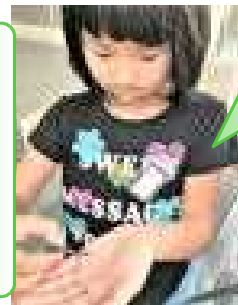
◆平川 さん（6年）：昇降口から上を見上げると、そこに「浅内小学校」と書いている看板と広い窓があり、細いベランダもある。そのベランダにオニヤンマを発見した平川さん。「校長先生！あのトンボを助けなければなりません！」その顔は本気。正直、高所恐怖症の私には荷が重い任務であったが、ここで断ったら人間失格！意を決して、平川さんと2人その高いベランダへ。私は平川さんに捕まりながらトンボにたどり着くのがやっとであったが、虫取り網でそっとオニヤンマを確保した平川さん。満足げに外に向かって救出したトンボを逃がしてやった。正義を感じた。

◆野沢 さん（4年）：ある日の昼休みの終わり。トンボ取りを終えた子どもたちが学校に向かう時、集団の中からこんな小さな声が聞こえた。「トンボさん、いろんな事を発見させてくれてありがとう。」その声に振り向くと、野沢さんが、トンボを放った後だった。「すてきな言葉だあ。」と、駆け寄って話を聞くと、「トンボを捕って、トンボを観察して、いろんな発見があったから、ありがとうって逃がしてやった。」とのこと。もう放った後だったけれども、そういう感情で生き物と接していることに感動し、別のトンボで写真を撮らせてもらった。

◆平川 さん（1年）：放課後授業の片付けに何人かの先生方と体育館に向かった。すでに、バスケ部が練習を始めようとしていた。そこに、平川さんがいた。小さい体でパワフルなあいさんは、私が持っている長テーブルと一緒に運んでくれた。それだけでも善行だが、ステージの上で瀕死状態のトンボを見つけた。平川さんは、そのトンボを、外の緑たくさん場所に寝かせてやった。やさしく。そおと。きっと、あのトンボは平川さんの元気をもらって飛んだのではないだろうか。翌日、そこにトンボはいなかった。※人間もトンボもみんな「生ある仲間」そんな気持ちを子どもたちから学んだエピソードである。



平川（6年）



平川（1年）



野沢（4年）

